

時間割コード	G2B45505	開講年度	2026					
授業題目	西洋史入門ゼミ					担当教員	佐藤 真紀	
英文授業名	Western history seminar							
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・5時限		対象学生	全
講義室	共通教育 2 3 講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
	大学DP							
	的確に情報を収集し、理解し、発信する力					西洋社会の歴史的理解を深める		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム	グローバルコア人材養成コース ・ B A S I C (国際理解)							
(4)授業の概要	好むと好まざるに関わりなく私たちの社会は、西洋社会の影響を受けている。そして、理解できているようでいて、なかなか理解できないのが、西洋社会である。受講者各自でテーマを選び、それについての調査結果を報告してもらう。その内容を、受講者全員で検討し、議論をする（グループワーク）ことにしたい。							
(5)授業のキーワード	西洋史、歴史学、グループワーク							
(6)授業計画	第1週 オリエンテーション 第2週 古代について 第3週 古代について 第4週 中世について 第5週 中世について 第6週 近世について 第7週 近世について 第8週 近代について 第9週 近代について 第10週 現代について 第11週 現代について 第12週 時代を問わず 第13週 時代を問わず 第14週 時代を問わず 第15週 まとめ							
(7)成績評価の方法	各自の発表内容と、授業参加態度により評価する。							
(8)成績評価の基準	発表のテーマに関する文献が網羅されており、かつその内容が的確に理解されていて、その理解が鮮明に発表内容に反映されている場合は、卓越している(S)。 発表のテーマに関する文献収集への努力が認められ、その内容理解に努めたことが確認でき、理解を表現する文章にもその成果がみられる場合は、かなり上である(A)。 発表のテーマに関して、興味のある文献を見つけることができ、それをたのしく読解して跡が認められる時は、やや上にある(B)。 発表したテーマについて、文献をみつけることができ、その内容を理解できたことが明らかである場合、その基準にある(C)。							
(9)事前事後学習の内容	事前に西洋史に関する文献を調査しておくこと。 発表後の討論において判明した新たな問題について、再び調査すること。							
(10)履修上の注意	外国語の勉強も同時にしっかり進めておくことが望ましい。							
(11)質問,相談への対応	メールにて受け付ける。アドレスはmaquis@shinshu-u.ac.jpです。							
(12)授業への出席	出席することを基本とします。							
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	授業に出席できない場合を想定して、発表者は全員、発表内容をe-Alpsにアップロードしていただきます。出席できない時には、そこで討論や質疑も行います。							
【教科書】	指定しない。							
【参考書】	指定しない。							